

第15回（2年）

1. 日 時：令和5年10月11日（水）
13:30～15:30
2. 場 所：へきしんギャラクシープラザ大会議室
3. テーマ：「安城の義民」
4. 講 師：富永 千良先生
(小学校社会科教諭)
5. 出席者：29/29名
6. 内 容



○「義民」とは、民衆のために一身を捧げた人をいう。
私は、この言葉があることをこの講座で初めて知った。安城の人々の生活改善に力を尽くした人々を取り上げました。

○佐倉惣五郎

もともとは、千葉県に住んでいた人。農民たちが年貢を納められずにいることをみて、国に直訴したが、本人も含め、家族まで処刑されてしまった。大きな犠牲を伴う行動であった。

○小向の義民伝説

小向の大屋長太夫は、3代将軍家光の時代に年貢の減免を願い出た農民に尽くした庄屋である。水害の多い小川村において、穀物が十分収穫できないことが度々起こり、家光へ30数回「願い書」をしたため直訴し、「免下げ」が許された。

○柴田助太夫伝説

天保年間（1830～1844）、大浜茶屋村には、宿駅の必要に応じて人馬を負担する役が命じられるしきたり（「助郷（すけごう）」）があった。生活が苦しい農民を目の当たりにした助太夫は、その免除を申し出て処刑されたが、のちにその願いは認められることになった。他の「義民」は略。

7. 感想

「義民」という視点から歴史を紐解くと、その時代に生きた人々の強い郷土愛を感じる。この郷土愛こそが街づくりには欠かせない力になると思った。貴重なお話であった。

